

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371601150		
法人名	医療法人 悠山会		
事業所名	グループホーム ファミリア植田		
所在地	愛知県名古屋市天白区植田1-1807		
自己評価作成日	平成24年1月20日	評価結果市町村受理日	平成24年4月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ケア・ウィル		
所在地	愛知県名古屋市市中村区椿町21-2 第2太閤ビルディング9階		
訪問調査日	平成24年2月9日	評価確定日	平成24年4月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの人間性や性格に配慮し、誇りやプライバシーを損なわないよう声がけしながらのケアを、スタッフと話し合いながら、家事等、協力し合い、楽しく生活していただけるよう支援しています。隣接する山内外科との連携を密にとり、24時間体制で安心して生活していただけるよう、健康管理を行なっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの隣に公園があり、入居者の居室の窓からは地域の高齢者がゲートボールをする姿や春には桜、秋には紅葉した木々が見え、季節を感じる事ができる。また、散歩に出かけ気分転換をしている。のんびり、ゆっくり過ごして頂くために、入居者の意思を尊重し、一人ひとりの生活スタイルを大切にしている。運営母体は医療法人であり、ホームの前に病院があることから24時間の連携がとれている。ユニットにより入居者の状態も異なるが、介護度の高い入居者も多く、思いを言葉や感情で表現することが難しいケースもあり、職員は体調の変化にすぐに気づき対応できるよう努めている。また、入居者の立場になって考え思いを汲み取ることができるよう職員間で話し合い情報を共有している。ホームで看取りの経験もあり、ターミナルケアについての勉強会を行う等、入居者や家族の希望に応じてホームでの生活を最期まで支援できるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の基本理念を根本的に意識づけ、実践につなげています。また、当施設では、ツ独自にゆっくり、のんびりとした生活ペースにその人らしい暮らしを送れるよう努めています。	「今までと変わらない、安らかで心和む暮らしをして頂きたい」を理念としている。入居者のペースに合わせてゆっくりとその人らしい生活を送って頂けるよう、職員は目配り心配りを心がけている。時には会議で議題にあげ話しあうこともある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との関わりはまだ万だ薄く、日常的な関わりは少ないが、散歩や買い物などの出先では声を掛けてくださる方や、関心を示して下さる人もいます。近所へ出かける事により、施設内だけの生活にならないよう、今後も交流を図っていきけるようにしていきたい。	散歩や近隣のスーパーへ買い物に出かけた折には、地域の方より声をかけて頂いている。地域の夏祭りに参加しているが、交流までには至っていない。今年、自治会へ入会し、地域との交流を図って行きたいと考えている。	地域にホームの存在を知ってもらうために、外出の機会を活用し、地域の活動を通して交流へと繋げていくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方での理解は難しいですが、散歩や買い物などの場を利用し、理解していただけるようになってきています。短期間ではあったが、コミュニティセンターでの交流も図っていた。今後はもっと地域との関わりを深めていけるよう努力したい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、ご家族、ご利用者の意見、要望を反映できるよう努めています。今年度より社会福祉協議会の協力もえることによる情報交換もでき、サービス向上に活かせるよう努めています。	2カ月に1回開催し、参加者は天白区東部いきいき支援センター職員、家族、入居者となっている。家族には全員に案内し、3～6名の方が参加している。会議では、ホームの状況や行事の報告がされ、家族や入居者から出た意見、要望は速やかに対処している。	地域の理解や支援を得るための機会であると考えられることから、地域の方に参加してもらえよう働きかけていくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所との連携の下、相談、指導等を受けながら実情やサービスの取り組みや改善点に関して、協力関係を築いています。	市役所には、勤務体制や更新手続き等で訪問している。困った事がある場合には、相談にのってもらい助言等ももらっている。市主催の研修会には管理者が出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関しては、外部からの侵入を防ぎ、利用者様の安全上やむを得ないが、利用者様の状況に合わせ解除しています。身体面では、利用者様の安全を考え、ご家族様の同意を得たうえで最小限で行ない、ミーティング等で課題に挙げ注意を促し安全なケアに取り組んでいます。	防犯のため玄関は施錠している。1階のリビングから外には自由に出ることができる。否定的な言葉や話し方をしていない場面があった時には、管理者が指導している。夜間、ベッドからの転倒を防止するため、柵を使用する場合は家族に説明し、同意書ももらっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等を開き、スタッフ同士、言葉遣いや行動について互いに注意を払いながら業務にあたり、コミュニケーションを大切に、互いに行動を把握し合い、予防に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修等に行き、必要に応じて支援しているようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、施設長により見学、契約時等での当施設の方針、内容等について十分説明し、納得していただいたうえで契約を交わし、入居していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回、運営推進会議の開催時、面会時等に意見や要望を伺う機会を設け、支援に努めています。	運営推進会議に家族が出席しており、意見や要望が出ている。家族の訪問は多く、管理者に直接話をする方もいる。8月には同法人のホームと合同家族会を開催した。ホーム便りには、入居者の日常の出来事や写真、職員の状況等が記載され、月1回発行している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にミーティングを開き、問題点や各スタッフの意見を聞く機会を設け、必要に応じて合同ミーティングにて意見、提案をし反映に努めています。	自己評価を毎年実施することにより、職員の状況を把握している。思いや要望が出た時は会議の中で話し合い解決している。法人内外の勉強会や研修を受ける機会を設け、職員のスキルアップを図っている。また、資格取得の支援も行っており、職員が働きやすい環境づくりに努めている。	法人内外の研修や勉強会の機会を設けていることから、常勤、非常勤問わず参加できるよう今後の取り組みに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価や勤務状況を把握し、公平に判断し各自の向上に努めています。また時間外については、必要に応じ給与に反映させています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や勉強会を個々に受ける機会を設け、スキルアップを図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の勉強会等に参加し交流を図り、サービスの向上に努めています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面会時より、ご本人及びご家族の意見に耳を傾け、入居後も要望などスタッフに話しやすい環境づくりに努め、本人が安心して生活していけるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が安心して頂けるよう、ご家族やご本人の話を耳を傾け、スタッフ間での伝達を密にとり、信頼関係を築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人及びご家族にとって、何が今必要なのかを、スタッフの目を通し見極め、安心していただけるようサービスの対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの生活リズムを崩さないよう、一人ひとりの人間性や性格に配慮しながら、同じ目線で柏をし、日常生活上の営みの中で、互いに協力し合い安心して生活していけるよう配慮しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の意向や可能性について、ご家族様と考え、協力していくよう努めています。また体調の変化や訴えのある時は敏速に連絡を取り、理解を得るように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室に馴染み品物等を置いて頂き、安心して生活していただけるよう支援しています。外出レクなどを活用し、馴染みの場所へ出掛けられるよう支援していきたい。	知人や友人等に自由に訪問してもらえるよう支援している。家族の協力により、冠婚葬祭に出席した入居者もおり、家族との絆を大切にしている。地域の喫茶店を利用したり、スーパーへ買い物に行く等、馴染みの関係づくりにも努めている。入居者の希望により、以前住んでいた家を見に出かけたこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、スタッフが間に入り、孤立しないよう配慮し支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じ、電話や手紙などで関係を大切にし、相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で、一人ひとりの訴えや意向に耳を傾け把握に努めています。本人の意向に沿えるよう、スタッフ間で話し合いを持ち支援しています。	職員は出勤時に入居者一人ひとりに挨拶してからケアに入っている。日常の生活の中で入居者の希望に添えるよう支援している。把握が困難な時は、目線を合わせ、思いを汲み取るようにしている。職員は日々の関わりの中で入居者の発する言葉を大切に、受け止めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前より、フェースシートやサマリーを活用し、ご家族の面会時等に話を伺う機会を設け、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送りを活用し、一日の暮らしの中での状況を把握するように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの担当者や本人、ご家族様の意見を介護計画に反映出来るよう、話し合いを持ちながら計画を作成しています。	入居時に入居者の情報を参考に介護計画書を作成し、6か月を目安にケアの提供状況を確認し、介護計画を見直している。見直す時には職員からの意見やアイデアを反映させている。状態に変化がある場合は随時見直しをしている。家族には、来訪時に確認をしてもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録により情報を共有し、ミーティングや申し送り等を通じて、ケアの実践に活かしながら、介護計画の見直しに役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	社会福祉協議会の協力の下、その時々で状況で社会資源を活用しながら、サービスを支援していけるよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関わりはまだまだ少ないですが、外出等の機会を増やし、地域資源を活用しながら、暮らしを楽しむ事が出来るよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の往診、病状に応じて随時、病院受診、夜間急変時等、24時間対応していただき、本人やご家族様に安心して頂けるよう支援しています。	入居時にホームのかかりつけ医について説明している。本人や家族の希望する医療機関を選択することも可能であり、受診前の情報提供や受診後には情報交換を行っている。受診は家族にお願いしているが、緊急時や事情によっては職員が受診の支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護により健康管理と現状把握を行ない、随時、山内外科の看護師、訪問看護師と連携を図り、24時間、適切な支援を受けられるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や、相談は密に行なうように努め、関係づくりを行なっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には、医師、看護師、ご家族様と話し合いを持ち、十分に説明、理解、納得していただき、スタッフと共に支援に取り組んでい、ます。	契約時にホームの方針や目的、支援方法を説明している。看取りの経験があり、入居者の状態の変化があれば、随時医師や本人、家族と話し合い意向を確認し、「その人らしい生活」に取り組んでいる。本人や家族、職員共に医療関係者から指導を仰ぎ、できる限りの支援を実践している。隣接する協力医や訪問看護と連携を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングや勉強会を開催し、対応、予防について理解を深めています。また事故発生時には、速やかに医師に連絡が摂れるよう、体制を作っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力の下、消防訓練を年2回、定期的に行い、日頃から発生時に備え、利用者様が避難できるよう装置等の点検、確認を行なっています。	消防訓練は消防署の協力を得て年2回実施している。避難誘導や消火器の使い方等を入居者と一緒に行っている。反省会では連絡網の確認や夜間時の対応、階段利用について、備蓄品の検討などの意見が職員から出ている。出された意見を反映し、浴槽に水を溜めたり、卓上コンロ、インスタント食品等を準備している。冷蔵庫や食器棚等の転倒防止策も取られている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の立場に立ち、利用者様の誇りやプライバシーを損ねないように、声掛けにはスタッフ同士、注意し合いながら対応しています。	プライバシー保護のマニュアルを作成しており、会議等で周知を図っている。入居者の呼び方については、本人に希望を聞き、誇りを損ねることがないように対応している。入居者の目線の高さに合わせて話しかけたり、ゆっくりと分かりやすい言葉かけを行っている職員の姿が見られた。髪型や服装等においても希望に沿えるよう家族の協力を得ながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の希望に沿えるよう援助しています。また言葉だけではなく、表情などから察知できるよう働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフのペースで行動するのではなく、利用者様一人ひとりの生活ペースに合わせ、過ぎて頂けるよう空間づくりに努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの利用者様の状態に合わせ、好みの服装を選んだり、選択困難な利用者様には、本人に代わり支援しています。利用室の方が、2ヶ月に1回来所され、好みの髪形に整えてくださいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフの一方的な介助にならないよう、本人の意欲や好き嫌いに配慮し、一人ひとりのペースに合わせ、召し上がって頂けるよう支援しています。外食支援や手作りおやつの手伝いなど支援に努めています。	食材と献立は法人が一括して準備しているが、ご飯や味噌汁等はホームで作っている。入居者には準備や片づけ等、できることを行ってもらっている。食事形態は一人ひとりに合わせて提供しており、口から食事をとることを大切に、「味わえる食事」の支援に取り組んでいる。おやつを入居者と職員と一緒に作る機会も設けている。また、外食は入居者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事摂取を行ない、食事、水分摂取量は記録を行ない、把握し、状況に応じて医師の指示の下、栄養補給や点滴を行なって頂きながら支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、一人ひとりの状態に合わせて、声掛け、介助等で口腔ケアを実施しています。週1回、歯科による口腔衛生に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、車椅子利用の方においても、日中は歩行でのトイレ誘導を実行し、夜間は安眠できるようバトの種類を検討しながら、支援に努めています。	トイレの場所は分かりやすく表示されている。車いすでも入れる広さで、手すりが設置され安心して使用できる。落ち着かない様子がみられる時はトイレに誘導し、失敗を少なくしている。夜間はポータブルトイレを使用する方もおり、入居者に合わせて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	筋力低下の影響もあり、便秘傾向の方が多く、運動を促したり、乳製品を摂るよう心がけ、状況に応じて下剤等の調節も行なっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自立した方はほぼ毎日、介助の必要な方は入浴日を決め、援助しています。また時季に応じ、ゆず湯や入浴剤を利用し、楽しんで頂けるよう支援しています。	入浴は午後から毎日入ることができる環境であり、入浴できない場合は清拭で対応している。脱衣室の入り口ドアには安心して入れるよう、「入浴中」等を表示している。入居者の好きな入浴剤や季節感のあるゆず湯を使用している。無理強いすることなく、タイミングをみながら個々の希望に沿った入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのリズムに合わせて、日中の活動量を増やし、安心して眠って頂けるよう支援しています。また必要に応じて入眠剤の検討も行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、看護師、薬剤師の指導の下、服薬管理を行ない、看護記録による把握に努め、体調変化が見られるときは、直ちに相談し支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の変化を感じて頂けるよう、年2回の合同行事、花見や散歩など、外気に触れられるよう外出計画を行なっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り外出の機会を設け、支援を行ない、家族参加も呼びかけています。	気候や天気をみながら少人数に分けて近くを散歩している。ホームの隣にある公園に出かけたり、日用品や衣類を買いに個別で出かけることもある。外食や季節の花見等の外出や、家族と一緒に出かける機会として法人の日帰りツアー、一泊旅行が毎年企画されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は施設立替であり、一部の利用者様については、ご家族様理解のもと所持していただき、買い物の援助を行ない、本人の意識維持に努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族利用症のもと、電話希望や手紙のやり取りは、出来る限り本人の希望に沿えるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感を取り入れ、清潔感に配慮しながら、居心地の良い空間づくりを大切にしながら、生活していただけるよう工夫しています。	ソファが置かれゆったりと寛げる。周りにはマンションが建っていることから、レースカーテンや御簾等でプライバシーに配慮している。温湿度は職員が入居者の様子や体調に配慮して調整している。入居者の生活動線に配慮して家具が配置され、入居者が怪我をしないよう角が丸みのあるテーブルを使用している。日めくり、季節感のある作品が飾られており、植木鉢では花を育てている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり思い通りに、穏やかな時間を過ごして頂けるよう、利用者様同士、気楽に行き来出来るよう配慮しています。またリビングではくつろいで頂けるようソファを置き工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の好みの物や、馴染みの物等を飾るなど工夫し、居心地の良い部屋作り配慮しています。	ベッド、布団、クローゼット等がホームで準備されている。その他は、思い思いに過ごせるよう、枕や毛布、仏壇、仏像、マリア像、テーブル、椅子、植木鉢、ポータブルトイレなど使い慣れた物が持ち込まれており、居心地のよい居室となっている。転落・転倒予防や生活習慣に合わせてベッドを使用していない入居者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限り、楽しんで行動して頂けるよう、ケアを提供する時も、一方的にならないよう出来る事、わかる事を確認しながら、安全な環境づくりを工夫し、自立した生活を送って頂けるよう支援しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371601150		
法人名	医療法人 悠山会		
事業所名	グループホーム ファミリア植田		
所在地	愛知県名古屋市天白区植田1-1807		
自己評価作成日	平成24年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの人兼性や性格に配慮し、誇りやプライバシーを損なわないようケアと、やれる事、したい事を見極めながら、楽しく生活を送って頂けるよう、スタッフと話し合いを持ちながら支援しています。隣接する山内外科との連携を密に摂り、24時間体制で、安心して生活して頂けるよう健康管理を行なっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の基本理念を根本的に意識づけ、実践につなげています。また、当施設では独自にゆっくり、のんびりとして生活をベースに、その人らしい暮らしを送れるよう努めています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の関わりは、まだまだ薄く日常的な関わりは少ないが、散歩や買い物などの出先では声を掛けてくださる方や、関心を示して下さる人もいます。近所へ出かける事により、施設内だけの生活にならないよう、今後も交流を図っていけるようにしていきたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々の理解は難しいですが、散歩や買い物などの場を利用し理解して頂けるようになってきています。短期間ではあったが、コミュニティーセンターでの交流を図っていた。今後はもっと地域との関わりを深めていけるよう協力したい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、ご家族、御両社様の意見、要望を反映出来るよう努めています。今年度より、社会福祉協議会の協力も得る事による、情報交換が出来、サービス教条に活かせるよう努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所との連携の下、相談、指導等を受けながら、実践やサービスの取り組みや改善点に関して協力関係を築いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関しては、外部からの侵入を防ぎ、利用者様の安全上やむを得ないが、利用者様の状況に合わせ解除しています。身体面では、両社様の安全を考え、ご家族様の同意を得たうえで最小限で行い、ミーティング等で課題に挙げ、注意を促し、安全なケアに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等を開き、スタッフ同士言葉遣いや行動について、互いに注意を払いながら業務にあたり、コミュニケーションを大切に、互いの行動を把握し合い、予防に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修等に行き、必要に応じて支援しているようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、施設長により見学、契約時等での当施設の方針、内容等について十分説明し、納得して頂いたうえで契約を交わし、入居して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1度、運営推進会議の開催時、面会時等に意見や要望を伺う機会を設け、反映に努めています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にミーティングを開き、問題点や各スタッフの意見を聞く機会を設け、必要に応じて合同ミーティングにて意見、提案をし反映に努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価や勤務状況を把握し、公平に判断し、各自の向上に努めています。また時間外については、必要に応じ給与に反映しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や勉強会等を個々に受ける機会を設け、スキルアップを図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の勉強会等に参加し、交流を図りサービスの質の向上に努めています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時より、ご本人及びご家族の意見に御m胃を傾け、入所後も要望などスタッフに話しやすい環境づくりに努め、本人が安心して生活していけるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が安心して頂けるよう、ご家族やご本人の話に耳を傾け、スタッフ間での伝達を密にとり、信頼関係を築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人及びご家族にとって、何が今必要なのかをスタッフの目を通し見極め、安心して頂けるようサービスの対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの生活リズムを崩さないよう、一人ひとりの人芸性や性格に配慮しながら、同じ目線で会話をし、日常生活上の営みの中で互いに協力し合い、安心して生活していけるよう配慮しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の意向や可能性について、ご家族様と考え協力していくよう努めています。また体調の変化や訴えのある時は、敏速に連絡を取り理解を得るよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室に馴染みの品物等を置いて頂き、安心して生活して頂けるよう支援しています。外出レクなどを活用し、馴染みの場所へ出掛けられるよう支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、スタッフが間に入り孤立しないよう配慮し、支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じ、電話や手紙などで関係を大切にし、相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で、一人ひとりの訴えや意向に耳を傾け、把握に努めています。理解困難な方に関しては、スタッフ間で話し合いを持ち、本人の意向に沿えるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前よりフェースシートやサマリーを活用し、ご家族の面会時等に話を伺う機会を設け把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送りを活用し、一日の暮らしの中での状況を把握するように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの担当者や本人、ご家族様の意見を介護計画に反映できるよう、話し合いを持ちながら計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録により情報を共有し、ミーティングや申し送り等を通じてケアの実践に活かしながら、介護計画の見直しに役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	社会福祉協議会の協力の下、その時々で状況で社会資源を活用しながら、サービスを支援していけるよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関わりはまだまだ少ないですが、外出等の機会を増やし、地域資源を活用しながら、暮らしを楽しむ事が出来るよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の往診、病状に応じて随時、病院受診、夜間急変時等、24時間対応していただき、本人やご家族様に安心して頂けるよう支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護により、健康管理と現状把握を行ない、随時、山内外科の看護師、訪問看護師と連携を図り、24時間適切な支援を受けられるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談は密に行うように努め、関係づくりを行なっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合に医師、看護師、ご家族様と話し合いを持ち、十分に説明し理解、納得していただき、スタッフとともに支援に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングや勉強会を開催し、対応、予防について理解を深めています。また事故発生時には、速やかに医師に連絡を取れるよう体制を作っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力に下、消防訓練を年2回定期的に行ない、日頃から発生時に備え、利用者様が避難できるよう装置等の点検、確認を行なっています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の立場に立ち、利用者様の誇りやプライバシーを損ねないように、言葉がけにはスタッフ同士、注意しながら対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の希望に添えるよう援助しています。またうまく言葉で表現できない利用者様に対しては、表情などで察知できるよう働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフのペースで行動するのではなく、利用者様一人ひとりの生活ペースに合わせて過して頂けるよう。空間づくりに努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの利用者様の状態に合わせ、好みの服装を選んだり、選択困難な利用者様には、本人に代わり支援しています。理容院の方が2ヶ月に1回訪問し、整髪を行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフの一方的な介助にならぬよう、本人の食べる意欲や好みの物、一人ひとりのペースに合わせ、召し上がって頂けるよう対応しています。外食支援や手作りおやつの手伝いなど支援に努めています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事提供を行ない、食事、水分摂取量は記録を行ない把握し、状況に応じて医師の指示の下、栄養補給や点滴を行なって頂きながら支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、一人ひとりの状態に合わせて声掛け、介助等で、口腔ケアを実施しています。週1回、歯科による口腔衛生に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、車椅子利用の方においても、日中に歩行によるトイレ誘導を実行し、夜間は安眠できるようパットの種類を検討しながら支援にあたっています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体力低下の影響もあり、便秘傾向の方が多く、運動を促したり、乳製品を摂るように心がけ、状況に応じて下剤等で調整を行なっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自立した方はほぼ毎日、介助の必要な方は入浴日を決め介助しています。また時季に応じゆず湯や入浴剤を利用し、楽しんで頂けるよう支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのリズムに合わせて、日中の活動量を増やし、安心して眠って頂けるよう支援しています。また必要に応じ、入眠剤の検討も行なっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、看護師、薬剤師の指導のもと、服薬管理を行ない、看護記録による把握に努め、体調変化が見られるときは、直ちに相談し支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の変化を感じて頂けるよう、年2回の合同行事、花見や散歩など、外気に触れられるよう外出計画を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り外出の機会を設け、支援を行ない、家族参加も呼びかけています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は施設立替であり、一部の利用者様については、ご家族様理解のもと所持していただき、買い物等の援助を行ない、本人の意識維持に努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族了承のもと、電話希望や手紙のやり取りは出来る限り、本人の希望に沿えるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感を取り入れ、清潔感に配慮しながら、居心地の良い空間づくりを大切にしながら、生活していただけるよう工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり思い通りに、穏やかな時間を過ごして頂けるよう、利用者様同士、気楽に行き来できるよう配慮しています。またリビングでは靴ろいて頂けるよう、ソファ等置き工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の好みの物や、馴染みの物等を飾るなど工夫し、居心地の良い部屋作りに配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限り、楽しんで行動して頂けるようケアを提供する時も、一方的にならないよう出来る事、わかる事を確認しながら、安全な環境づくりを工夫し、自立した生活を送って頂けるよう支援しています。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		地域との関わりは少なく、日常的な交流があまりなく、運営推進会議に地域住民の参加がない。	町内会の活動に参加し、地域住民との情報交換を図り、交流を深め、運営推進会議への参加を呼びかけていく。	ご家族様の参加しやすい週などアンケートをとり調整した。東部いきいきセンターには毎回参加依頼を行い、参加して頂いている。今年度は隣接する当法人理事長宅が町内会会長を務めるため、情報交換を密にとり、活動に参加していきたい。	12ヶ月
2		ご家族より・・・職員が名札は付けていないので、名前がわからない。要望はしたが改善されないとの意見があった。	全ての職員に名札を義務化し、ご家族様に早く顔と名前を覚えて頂くようにしていく。	現任職員には、名札付きエプロン着用を義務化し通達している。今後、新任職員に対しても教育、指導を行っていく。	3ヶ月
3		ご家族より・・・入所者が机にうつぶせにしていたり、話しかけられる事もなく、ボーと過ごしている様子があり、入所者が楽しめる娯楽があればとの意見があった。	レクリエーションの充実を図り、利用者様と職員と一緒に楽しむ機会を増やしていきたい。	毎日2回、ラジオ体操を習慣づけ、施設内外でのレクリエーション、行事等を検討中である。日々の生活の中でのコミュニケーションを図れるようスタッフ間での統一に努めている。	3ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月
6					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。